

㊦天子田小 田中 滉太郎 御器所小 戸田 海斗 千音寺小 加藤 遼馬
苗代小 坂野 百香 表山小 鈴木 皓太

自ら学習を進めることのできる児童の育成

1 研究のねらい

私たちは、自ら学習を進めることのできる児童を育てたい。本研究における、自ら学習を進めることのできる児童とは、単元や授業の初めに明らかになった課題に対して、「解決したい」という思いをもち、見通しをもって解決していくことのできる児童のことである。このような自ら学習を進める力は、グローバル化の進展や技術革新等により、急速に変化するこれからの社会を自ら切り拓いていくために必要であると考えます。

本グループの学級の授業を見てみると、退屈そうにしていたり、分からない問題に対して投げ出してしまったりする児童の姿が見られ、自ら学習に取り組んでいるとは言い難い。これは、児童に対して一方的に課題を与え、児童に見通しをもたせることなく解決を促すような授業を進めていたことに問題があったと考える。また、学習の習熟度が児童によって異なるにもかかわらず、一斉に同じような方法で学習に取り組ませていたことも問題であったと考える。

そこで、本研究では、次のような手立てを講じることで、自ら学習を進めることができる児童に迫ることができるようにしたい。

2 研究の手立て

- ・ 「やってみたい」、「考えてみたい」という思いを引き出すことのできる学習問題を提示することで、児童に目的をもたせ、主体的に学習を進めることができるようにする。
- ・ 本時の問題と前時までの問題との共通点と相違点を考えさせることで、前時までの学習内容から本時の問題の解決の見通しをもつことができるようにする。
- ・ 問題解決チャートに問題解決のために必要な考え方をグループで三つのステップに分けて表させることで、筋道を立てて問題解決に向かうことができるようにする。
- ・ 児童一人一人に単元の学習内容の習得を目指した学習計画表を作成させることで、見通しをもって解決していくことができるようにする。
- ・ 単元の導入で、単元を通して使える既習の考え方を確認させることで、単元を通してその考え方を意識しながら学習に取り組むことができるようにする。
- ・ 学習の到達の目安となるチェックシートや習熟度チェック問題を作成し、定期的に確認させることで、客観的に自己評価し、次時の課題を設定することができるようにする。
- ・ 単元の導入の場面で、この単元ではどのようなことを学ぶのか、単元の課題は何かを全体で共有することで、単元を通じた学習の見通しをもつことができるようにする。
- ・ 課題を解決する際に、自分に合ったペースや方法を自分で決めて取り組ませることで、自ら課題解決を目指して学習を進めることができるようにする。
- ・ 授業の終わりに、自分に合ったペースや方法で学びを確実にする活動をさせることで、自分の学習状況に合わせて学習を進めることができるようにする。